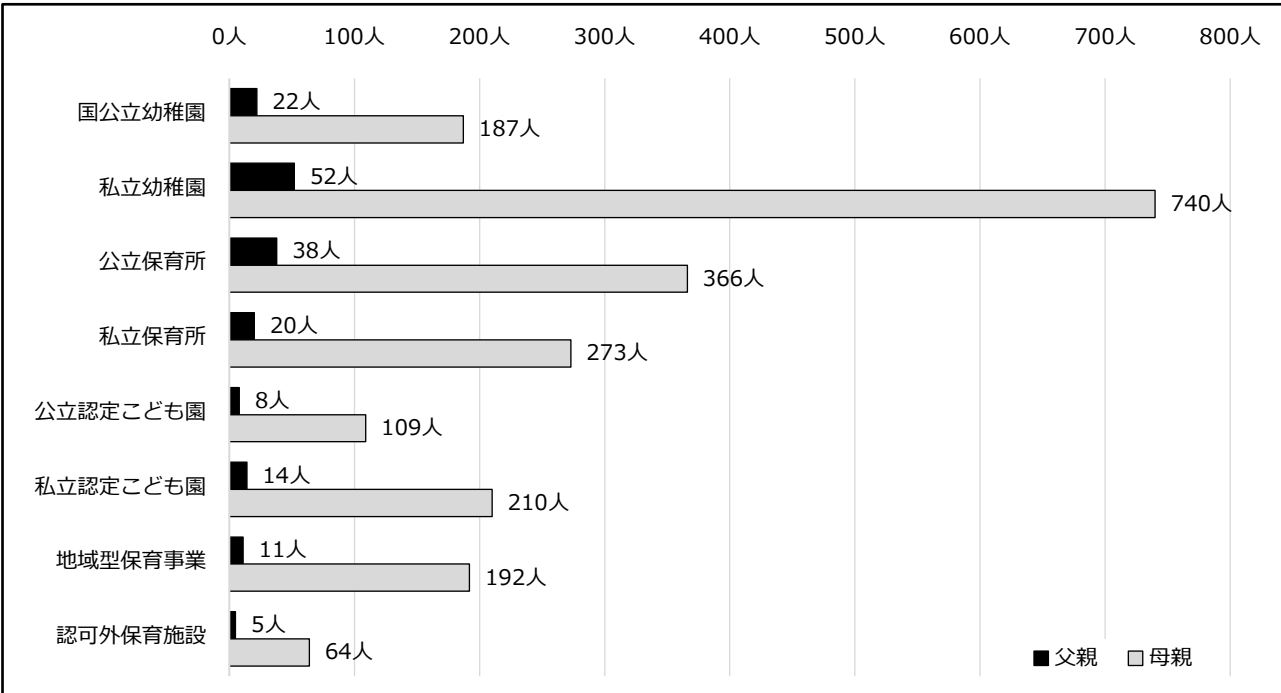


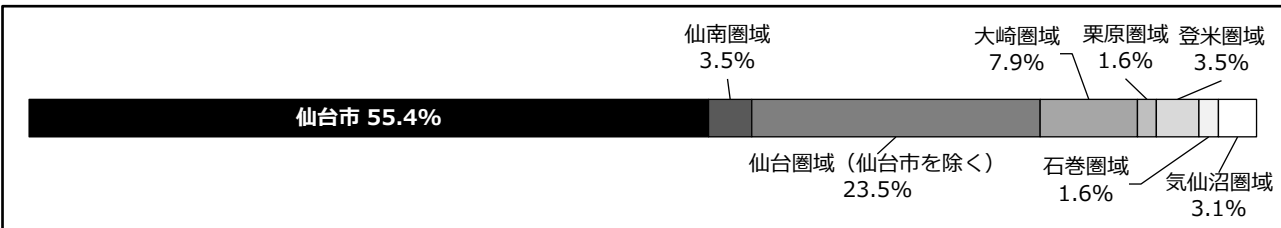
幼児教育に関わるアンケート結果（対象者：保護者）

回答数

対象施設			回答数（人）			
施設区分	施設数		保護者(父親)	保護者(母親)	保護者(その他)	合計
幼稚園	国公立	74	22	187	1	210
	私立	150	52	740	0	792
	小計	224	74	927	1	1,002
保育所	公立	156	38	366	0	404
	私立	267	20	273	1	294
	小計	423	58	639	1	698
認定こども園	公立	8	8	109	0	117
	私立	69	14	210	0	224
	小計	77	22	319	0	341
地域型保育事業		288	11	192	1	204
認可外保育施設		277	5	64	0	69
合計		1,289	170	2,141	3	2,314



居住地



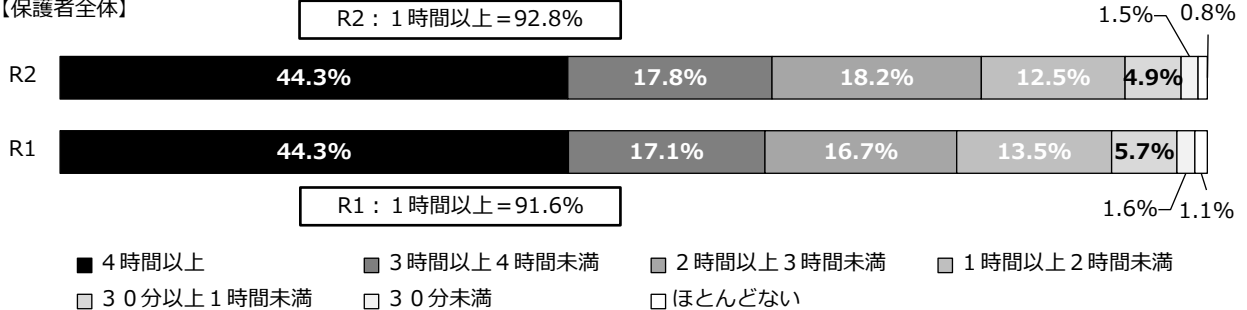
回答方法



1 親子のかかわりについて

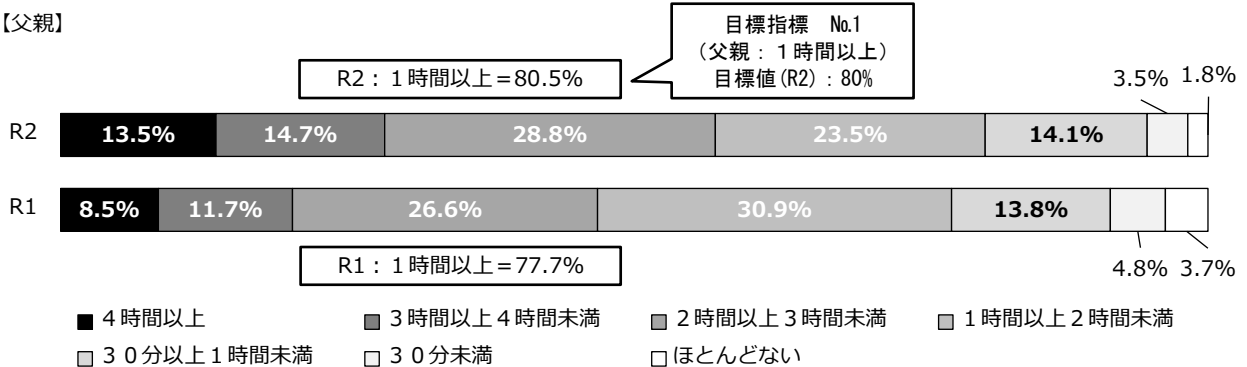
1-1-1 あなたは、平日（休日以外）にお子さんと触れ合う時間はどの位ありますか。（食事と入浴を除いた1日当たりの平均時間）

【保護者全体】

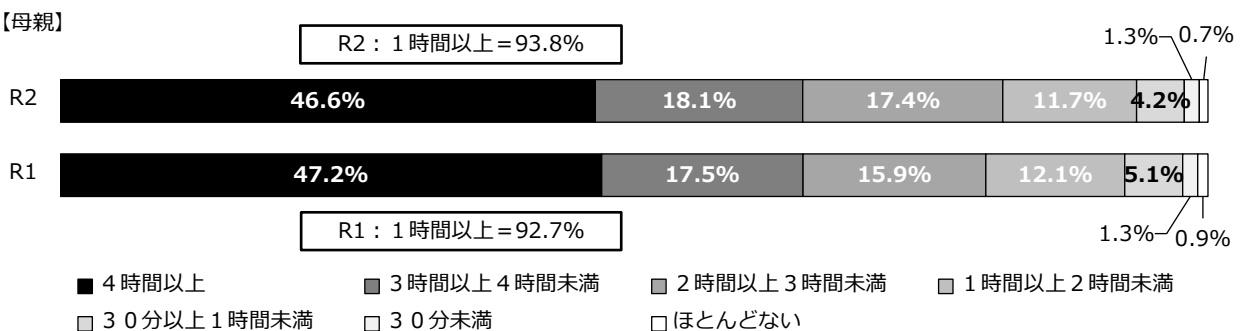


(父親・母親別内訳)

【父親】



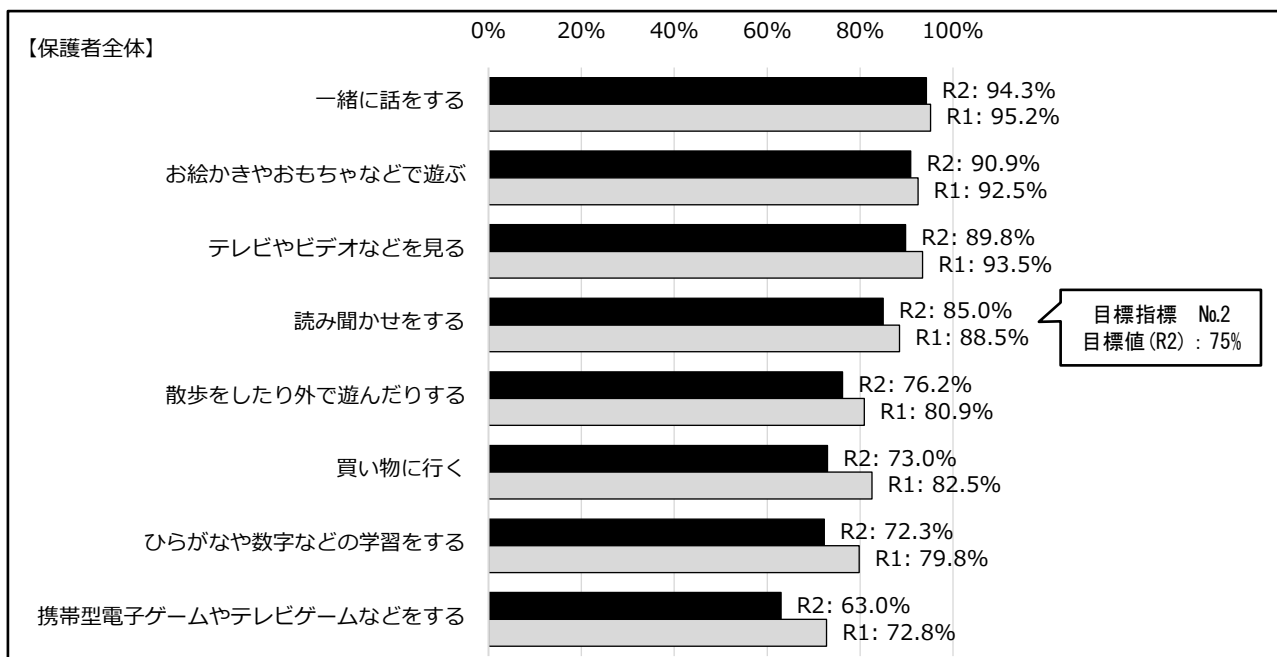
【母親】



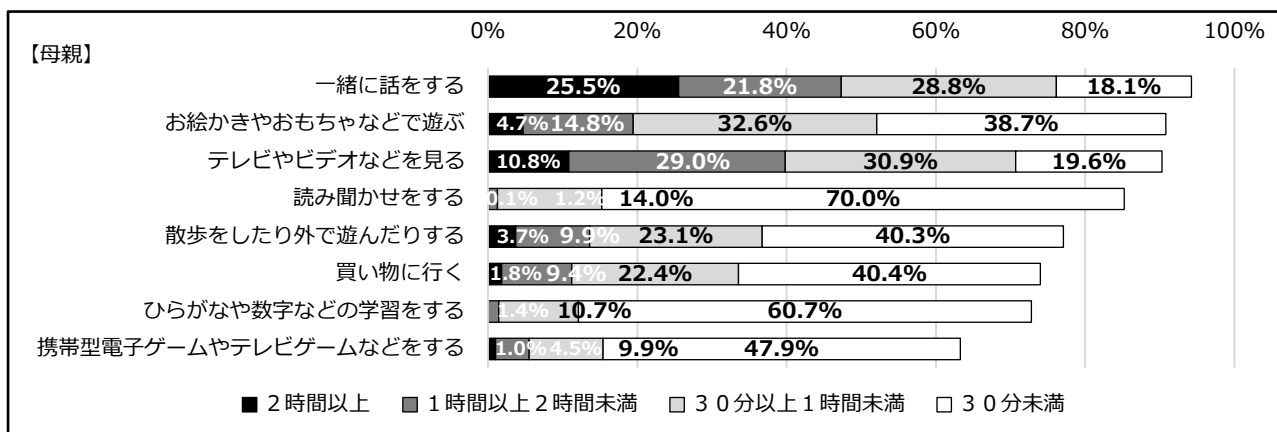
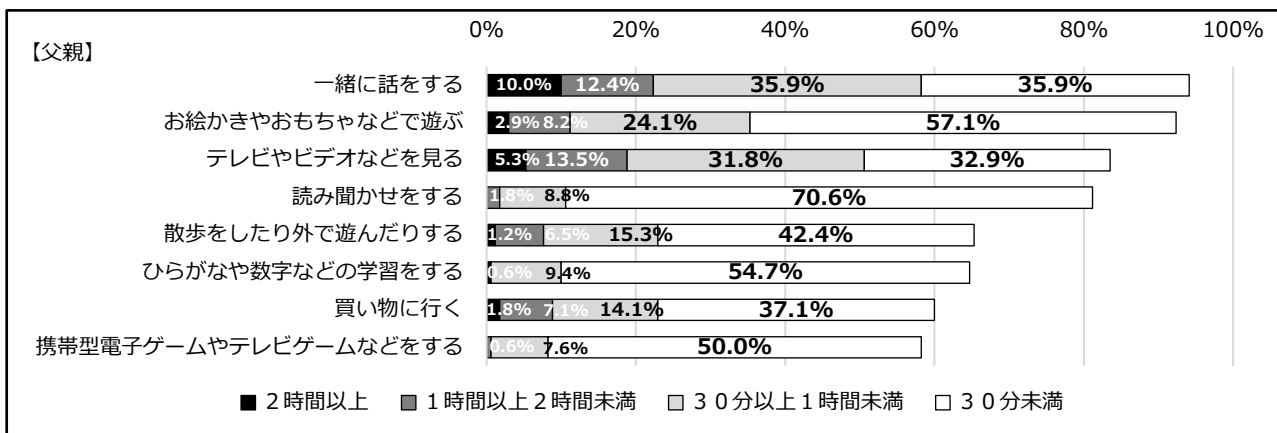
【概要・考察等】

- 平日、子供と触れ合う時間が1時間以上と回答した保護者全体の割合は、昨年度より1.2ポイント増加し、父親・母親別でも、父親が2.8ポイント増加、母親が1.1ポイント増加と、いずれも昨年度より増加した。
- 平日、子供と触れ合う時間が1時間以上と回答した父親の割合は、目標値を上回った。

1-1-2 「1-1-1」で選択した「触れ合う時間」において、お子さんと一緒に何をすることが多いですか。（該当するもの全てを選択し、それぞれの時間も選択）



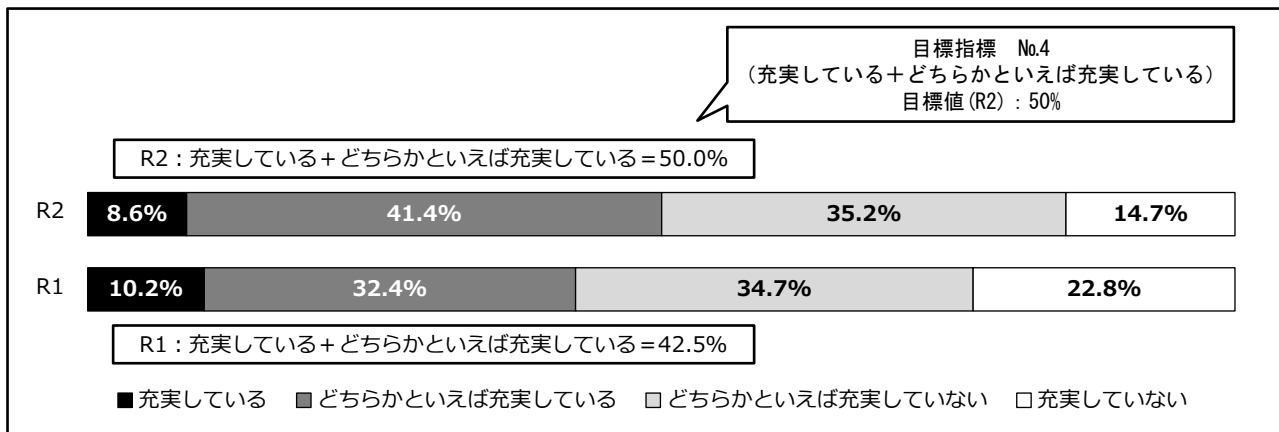
(父親・母親別内訳)



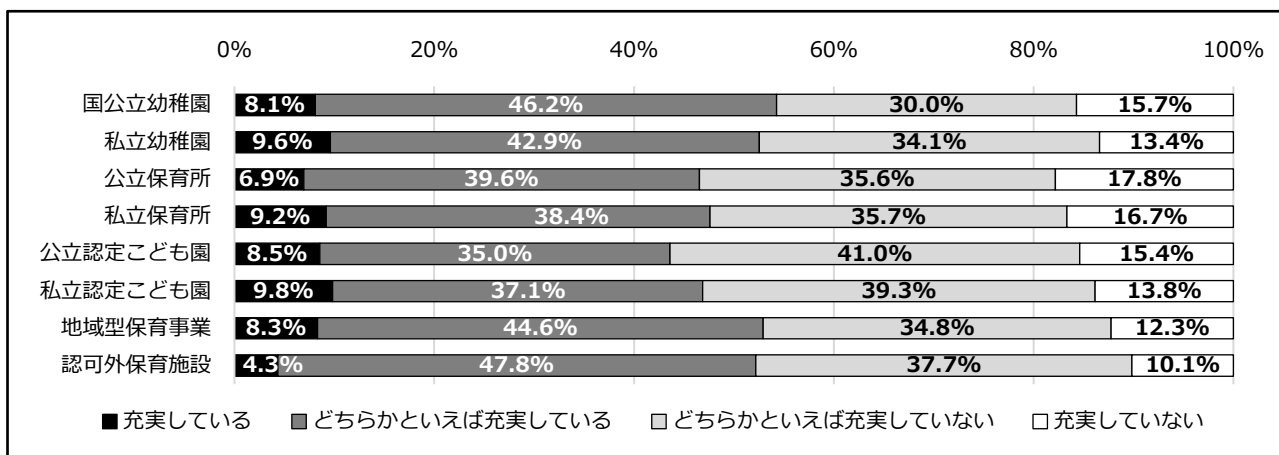
【概要・考察等】

- 子供と触れ合う内容について、「一緒に話をする」「お絵かきやおもちゃなどで遊ぶ」と回答した割合が昨年度に引き続き父親・母親ともに高く、家庭での親子間の愛着形成が図られていることがうかがえる。
- 「読み聞かせをする」と回答した割合は、昨年度より減少したが、目標値は上回った。
- 「携帯型電子ゲームやテレビゲームなどをする」と回答した割合は、昨年度より9.8ポイント減少し、選択肢の中で最も低い割合となった。

1-2 親として成長していくための学ぶ機会（妊娠・出産や子育てなどに関する教室や講座など）は充実していますか。



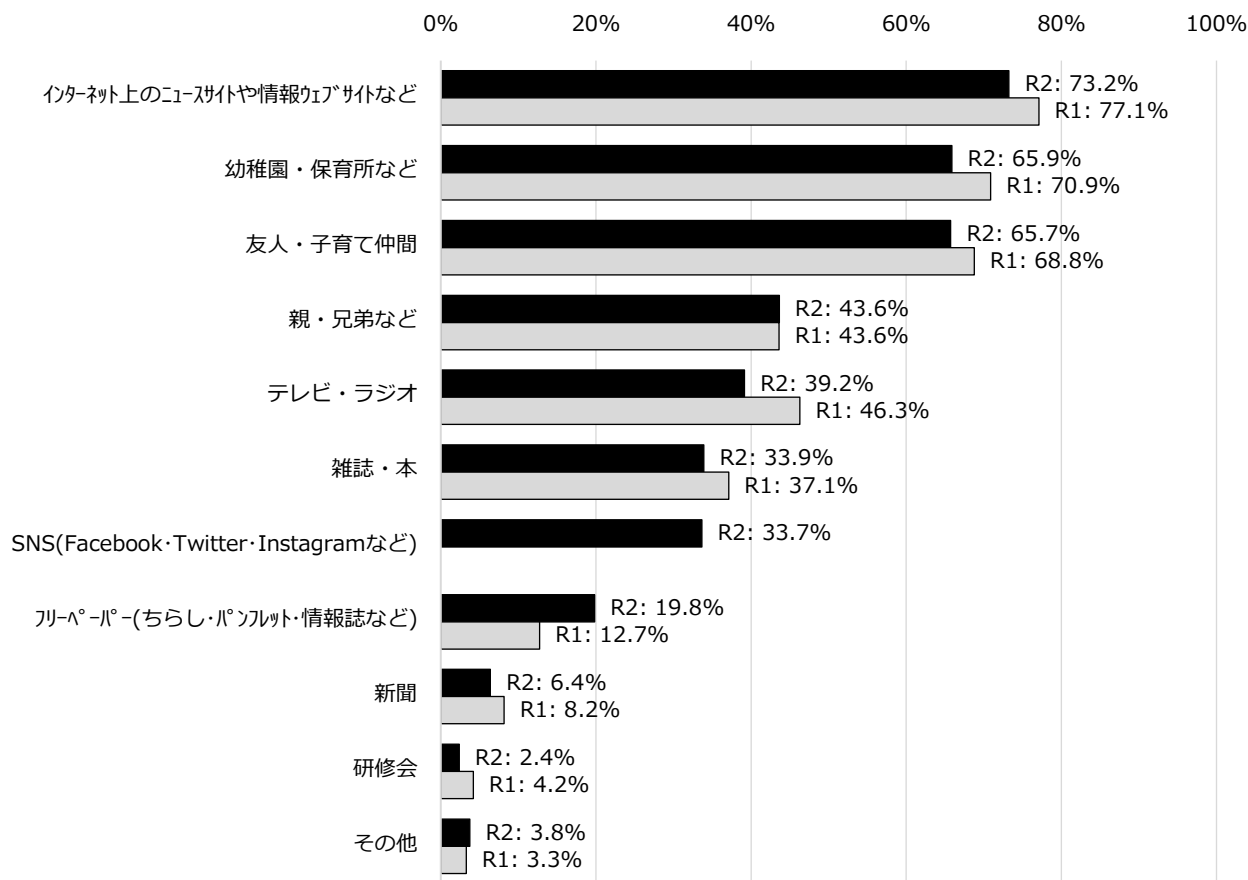
(施設類型別内訳)



【概要・考察等】

- 学ぶ機会が「充実している」「どちらかといえば充実している」と回答した割合は、昨年度より7.5ポイント増加し、目標値を上回った。
- 引き続き保護者の就労状況等に応じた学ぶ機会の在り方や情報提供の方法を工夫していく必要がある。

1-3 子育てに関する情報（知識）は、主にどのようなところから得ていますか。（該当するもの全て選択）



○ R2から「SNS (Facebook・Twitter・Instagramなど)」の選択肢を追加 (R1まで未設定)
 → R2は「回答者のより正確な実態」を集計 (R1の結果とは単純に比較することはできないが参考として掲載)

【その他の主な内容】

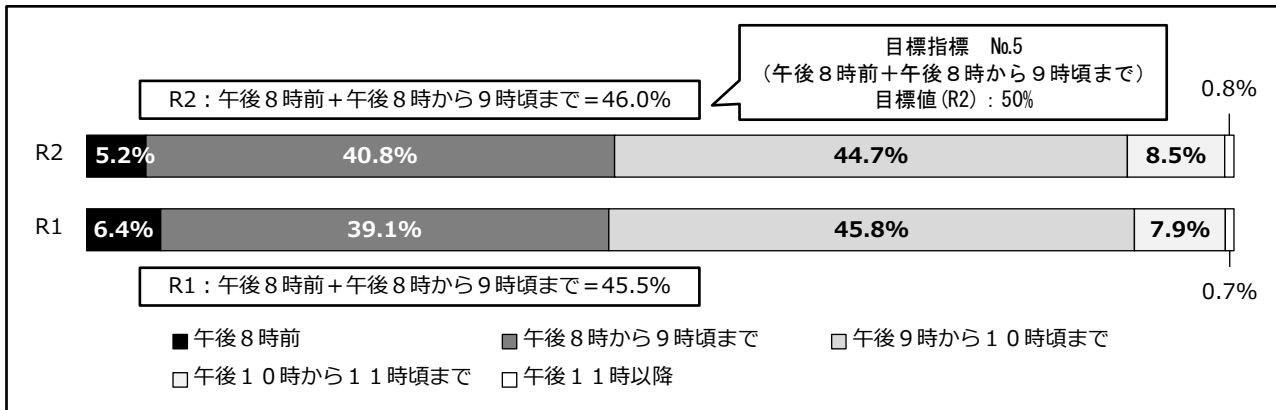
職場、地域の子育て支援センター、児童館、習い事教室、助産院

【概要・考察等】

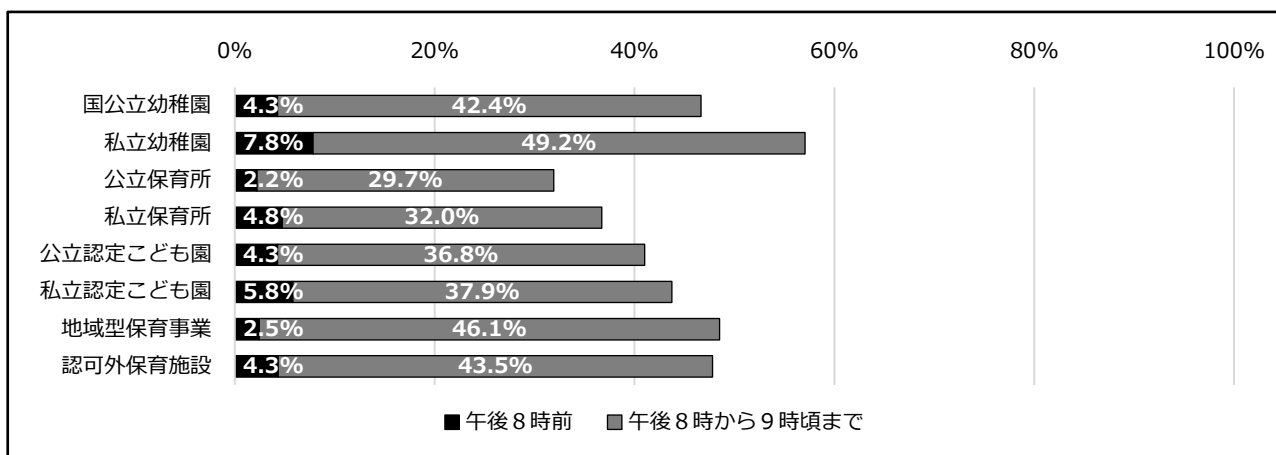
- 「インターネット上のニュースサイトや情報ウェブサイトなど」と回答した割合が最も高かった。
- 「幼稚園・保育所など」「友人・子育て仲間」「親・兄弟など」のように人を介して情報を得ている割合も高かった。
- 「フリーペーパー（ちらし・パンフレット・情報誌など）」と回答した割合も、昨年度と同様に一定数あることから、保護者のニーズに応じつつ、効果的かつ効率的な情報提供の在り方について考えていく必要がある。

2 お子さんの基本的生活習慣について

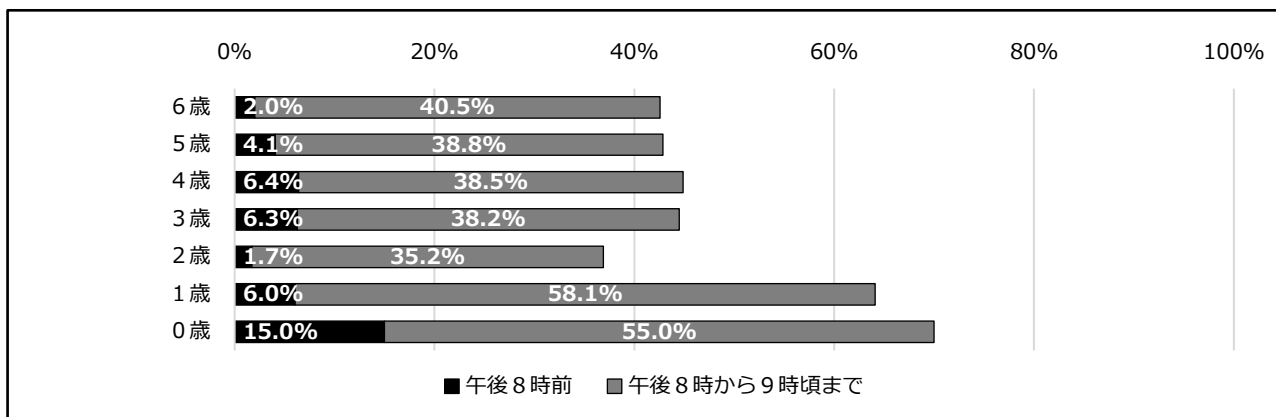
2-1-1 お子さんはいつも何時頃に寝ていますか。



(施設類型別内訳)



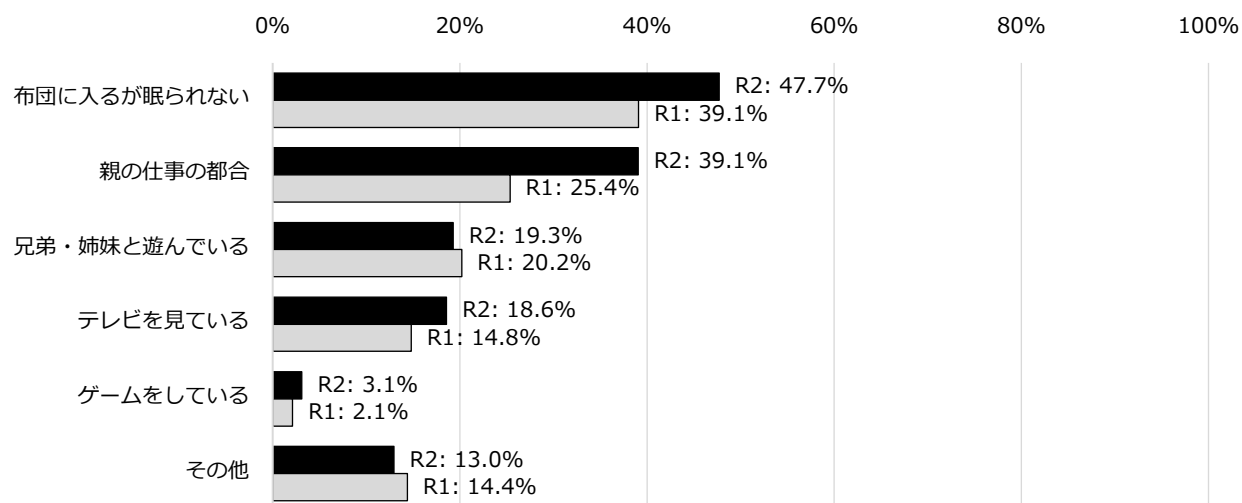
(年齢別内訳)



【概要・考察等】

- 県で推奨している『子供が「午後9時頃まで」に就寝する』と回答した割合は、昨年度より0.5ポイント増加した。一昨年度と比較すると、11.3ポイント増加したことから、徐々に改善傾向が見られる。引き続き啓発していく必要がある。
- 『子供が「午後11時以降」に就寝する』と回答した割合は、0.8%だった。睡眠は子供の健やかな成長にとって大切であるということについて、引き続き啓発するとともに、家庭生活と仕事の調和についても、社会全体で考えていく必要がある。

2-1-2 「2-1-1」で「午後9時から10時頃まで」、「午後10時から11時頃まで」又は「午後11時以降」を選択した方は、お子さんが午後9時以降に寝る理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



- R2から「2-1-1」で『子供がいつも「午後9時以降」に就寝すると回答した保護者のみ』を対象とする質問に変更（R1まで「保護者全員」対象）
→ R2は「回答者のより正確な実態」を集計（R1の結果とは単純に比較することはできないが参考として掲載）

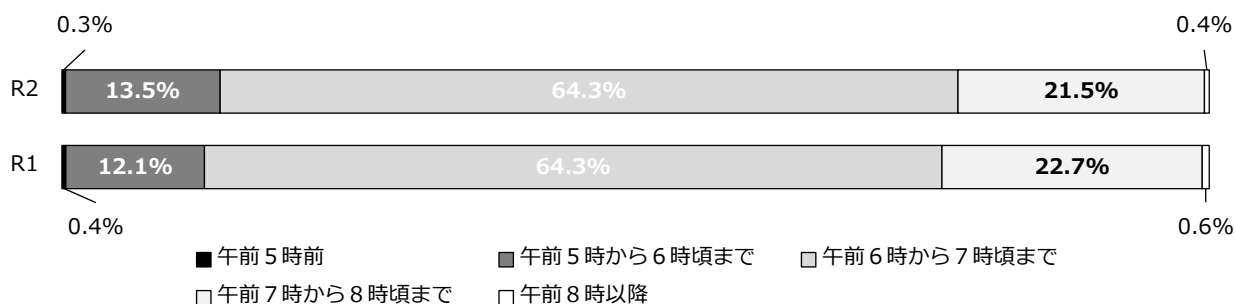
【その他の主な内容】

昼寝の時間が長かった、夕寝をした、父親の帰りを待っていた、習い事（兄弟・姉妹）があった

【概要・考察等】

- 「布団に入るが眠られない」を理由として回答した割合が最も高かった。日中に十分体を動かさずなど、生活リズムが整えられるように啓発する必要がある。

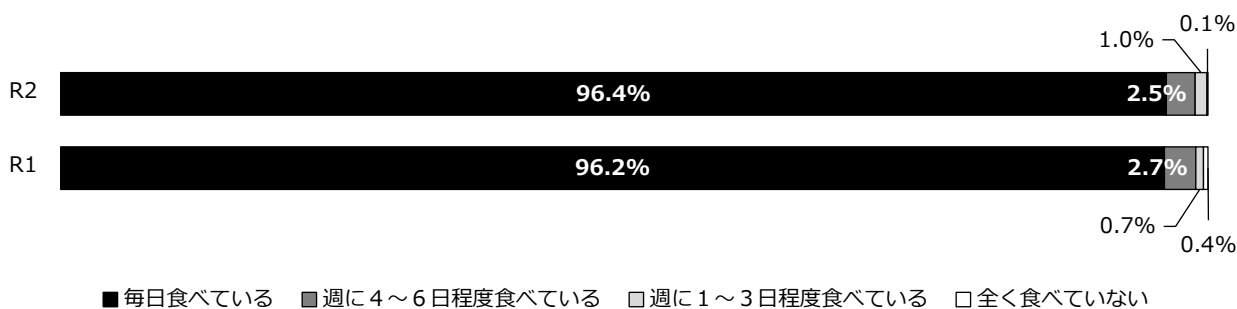
2-2 お子さんはいつも何時頃に起きますか。



【概要・考察等】

- 『子供がいつも「午前7時頃まで」に起床する』と回答した割合は、1.3ポイント増加した。

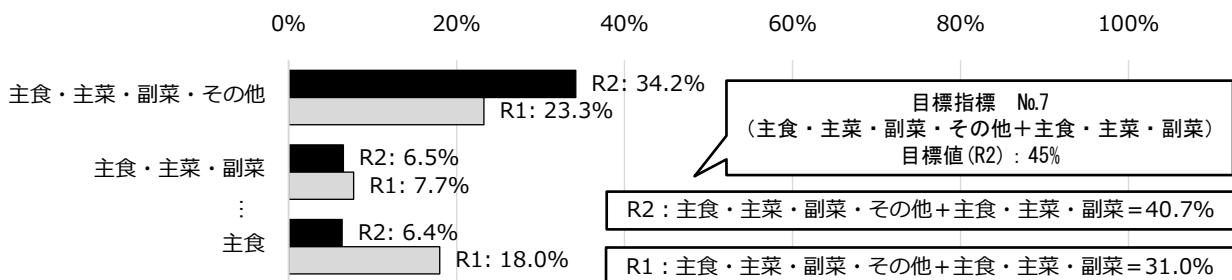
2-3-1 お子さんは毎日、朝ごはんを食べていますか。



【概要・考察等】

- 朝食を「毎日食べている」「週に4～6日程度食べている」と回答した割合は、昨年度と変わらず、高い割合を示している。
- 「全く食べていない」と回答した割合は、0.1%であり、昨年度より0.3ポイント減少したことから、朝食の必要性についての理解が浸透し実践に結びついていることがうかがわれる。

2-3-2 「2-3-1」で「毎日食べている」又は「週に4～6日程度食べている」を選択した方は、お子さんが普段朝ごはんに食べているものを全てお答えください。（該当するもの全て選択）

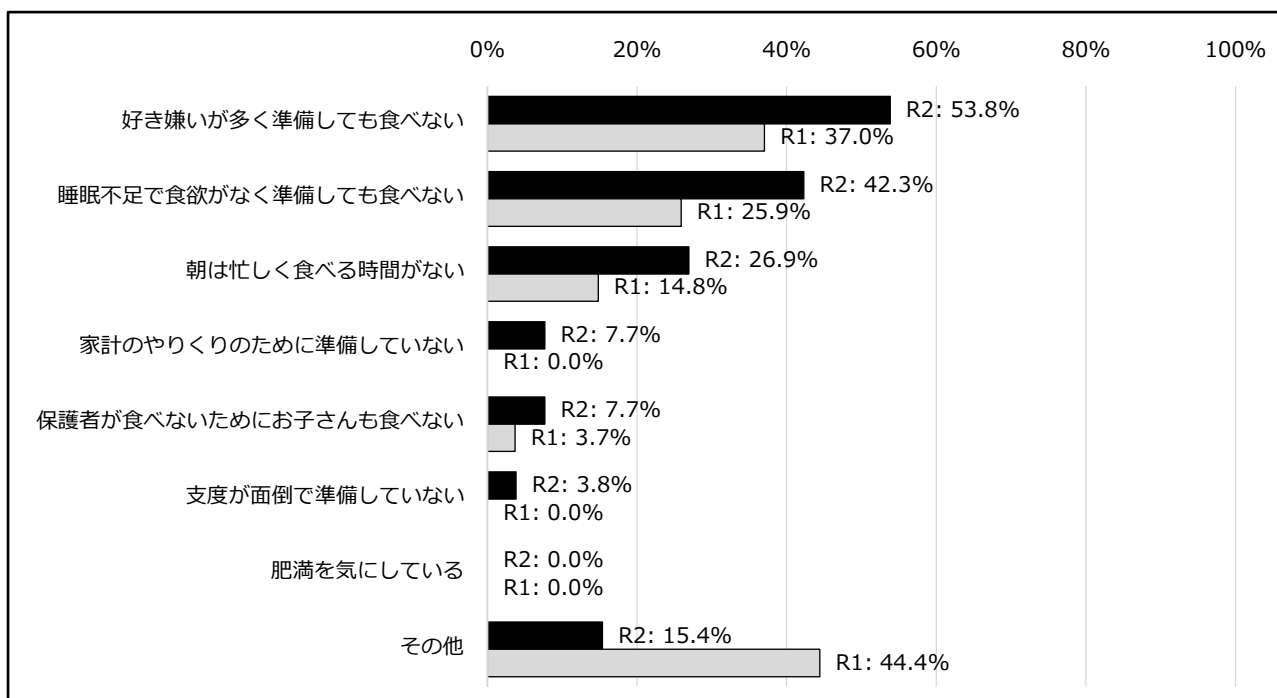


- R2から「2-3-1」で『子供が朝食を「毎日食べている」「週に4～6日程度食べている」と回答した保護者のみ』を対象とする質問に変更（R1まで「保護者全員」対象）
→ R2は「回答者のより正確な実態」を集計（R1の結果とは単純に比較することはできないが参考として掲載）

【概要・考察等】

- 朝食に「主食・主菜・副菜・その他」「主食・主菜・副菜」を食べていると回答した割合は、昨年度より9.7ポイント増加した。
- 「主食」のみと回答した割合は、6.4%であり、朝食の必要性とともに、栄養バランスのよい朝食を摂ることの重要性についての意識が改善傾向にあることがうかがわれる。

2-3-3 「2-3-1」で「週に1~3日程度食べている」又は「全く食べていない」を選択した方は、お子さんが朝ごはんを食べない理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】

離乳食（昼夜）のため、気分で食べないため

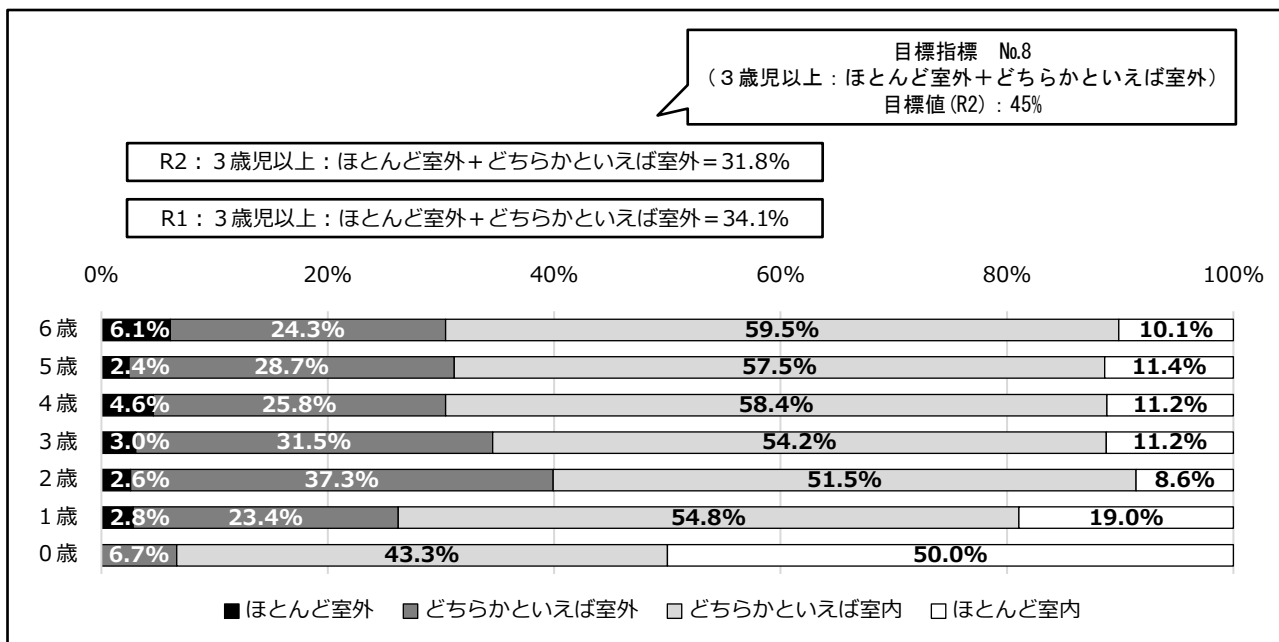
【概要・考察等】

- 「好き嫌が多く準備しても食べない」「睡眠不足で食欲がなく準備しても食べない」を理由として回答した割合が高く、保護者が準備しても食べないという理由が目立った。
- 「睡眠不足で食欲がなく準備しても食べない」「朝は忙しく食べる時間がない」という理由に対しては、就寝時刻の見直しなどにより改善されることが期待される。

2-4 お子さんは平日や休日に家庭で遊ぶとき、室内、室外のどちらが多いですか。



(年齢別内訳)



【概要・考察等】

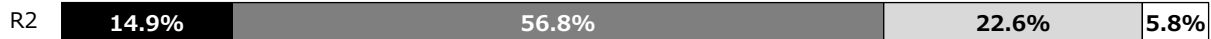
- 家庭で遊ぶとき「ほとんど室外」「どちらかといえば室外」と回答した割合は、昨年度より1.3ポイント減少した。新型コロナウイルス感染症との因果関係ははっきりしないが、今後は、感染症の拡大防止等について考慮しながら、室外で遊べる場所などについて考えていかなければならない。
- 年齢別では、3歳児以上が家庭で遊ぶとき「ほとんど室外」「どちらかといえば室外」と回答した割合は、昨年度より2.3ポイント減少した。

2-5-1 お子さんの基本的生活習慣の確立にもつながる「生活と親の仕事のバランス（『ライフ・ワーク・バランス』）」はとれていると感じますか。

※ 現在、就業している方のみ回答

目標指標 No.9
（とれている+どちらかといえばとれている）
目標値（R2）：95%

R2：とれている+どちらかといえばとれている=71.7%

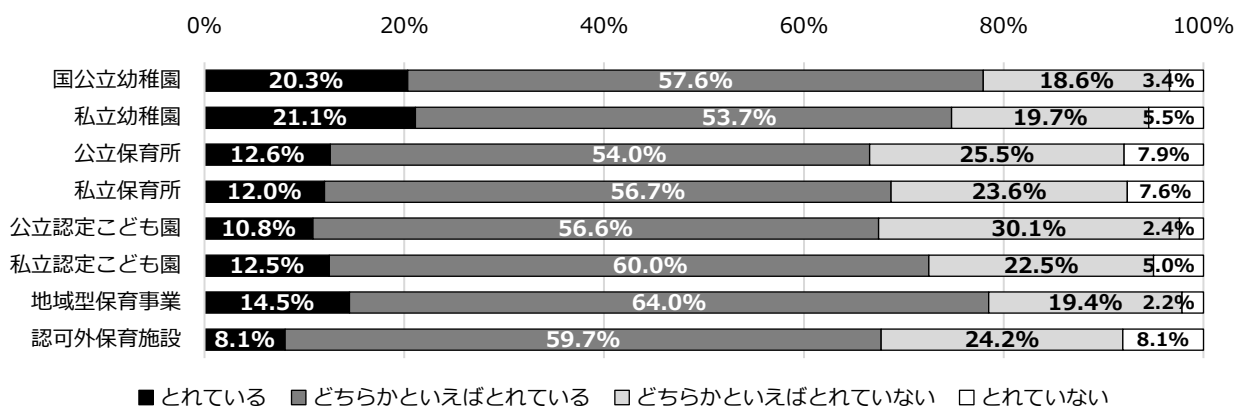


R1：とれている+どちらかといえばとれている=76.0%

■ とれている ■ どちらかといえばとれている □ どちらかといえばとれていない □ とれていない

- R2から「就業している保護者のみ」を対象とする質問に変更（R1まで「保護者全員」対象）
→ R2は「回答者のより正確な実態」を集計（R1の結果とは単純に比較することはできないが参考として掲載）

（施設類型別内訳）

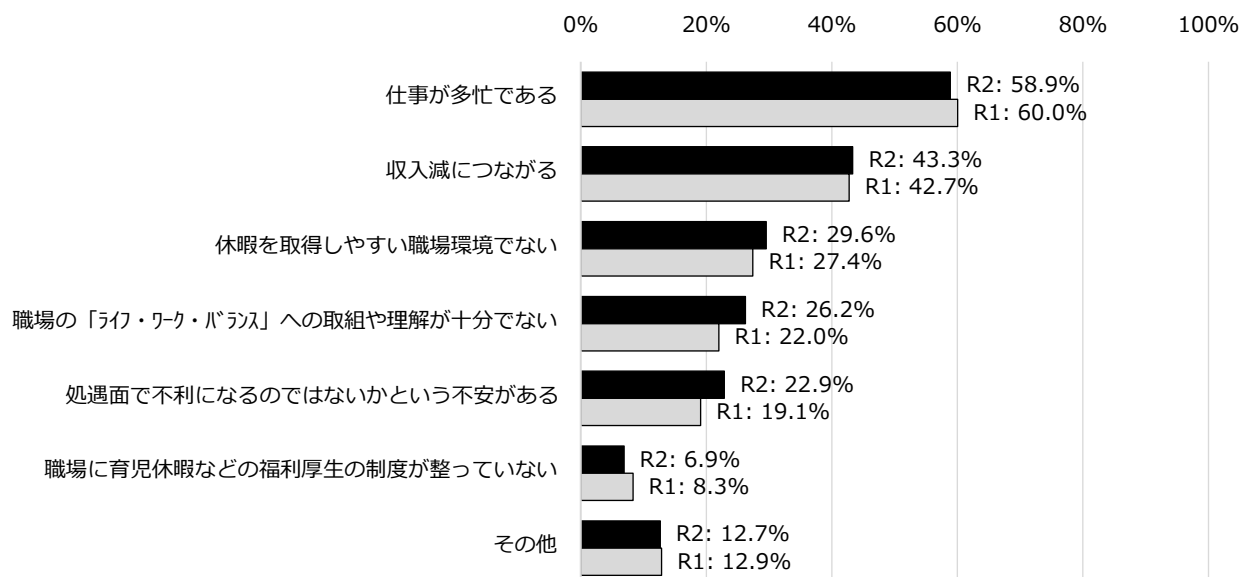


【概要・考察等】

- 就業している保護者のみに限定した今回のアンケートでは、生活と親の仕事のバランス（「ライフ・ワーク・バランス」）が「とれている」「どちらかといえばとれている」と回答した割合は、71.7%となった。
- 本アンケートの他設問結果において、昨年度よりも「子供と触れ合う時間が1時間以上」と回答した割合は増加してはいるが、企業における一層の「働き方改革」の推進や「学ぶ土台づくり」に関連する施策についての啓発を図る必要がある。

2-5-2 「2-5-1」で「どちらかといえばとれていない」又は「とれていない」を選択した方は、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）

※ 現在、就業している方のみ回答



- R2から「就業している保護者のみ」を対象とする質問に変更（R1まで「保護者全員」対象）
→ R2は「回答者のより正確な実態」を集計（R1の結果とは単純に比較することはできないが参考として掲載）

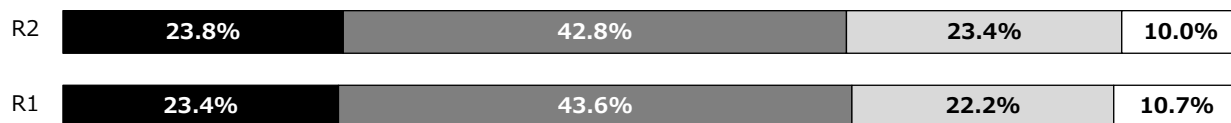
【その他の主な内容】

勤務時間が不規則なため、勤務場所が遠方のため、時短勤務が気軽にできないため

【概要・考察等】

- 「仕事が多忙である」を理由として回答した割合が最も高かった。
- 「収入減につながる」「休暇を取得しやすい職場環境ではない」「職場の『ライフ・ワーク・バランス』への取組や理解が十分でない」「処遇面で不利になるのではないかと不安がある」を理由として回答した割合は、いずれも20%以上と高く、職場や企業の理解を得られるよう引き続き啓発していく必要がある。

2-6 子供の基本的生活習慣の確立に向けた「ルルブル」の取組に関して、家庭における取組状況についてお答えください。

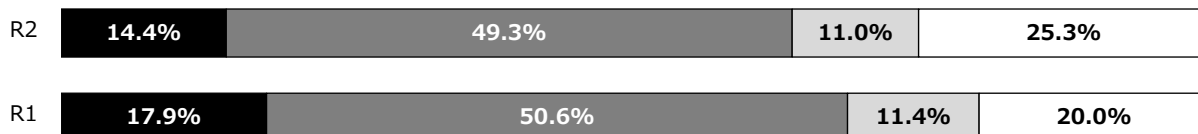


- 「ルルブル」を実践（意識）している
- 「ルルブル」は知らないが、その内容は実践（意識）している
- 「ルルブル」は知っているが、実践（意識）していない
- 「ルルブル」を知らないし、実践（意識）していない

【概要・考察等】

- 「ルルブル」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、昨年度より0.4ポイント減少した。
- 「知らないが、その内容は実践（意識）している」「知らないし、実践（意識）していない」と回答した割合は、昨年度より1.5ポイント減少したが、引き続き「ルルブル」の取組の普及啓発を図っていく必要がある。

2-7 幼児教育の充実に向けた「学ぶ土台づくり」の取組に関して、家庭における取組状況についてお答えください。



- 「学ぶ土台づくり」を実践（意識）している
- 「学ぶ土台づくり」は知らないが、その内容は実践（意識）している
- 「学ぶ土台づくり」は知っているが、実践（意識）していない
- 「学ぶ土台づくり」を知らないし、実践（意識）していない

【概要・考察等】

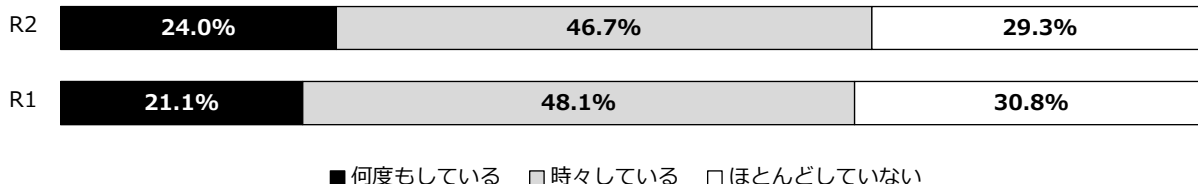
- 「学ぶ土台づくり」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、昨年度より4.8ポイント減少した。
- 「知らないが、その内容は実践（意識）している」「知らないし、実践（意識）していない」と回答した割合は、昨年度より4.0ポイント増加したことから、更に「学ぶ土台づくり」の取組の普及啓発を図っていく必要がある。

（今年度の教員・保育士と保護者の実践（意識）の比較）

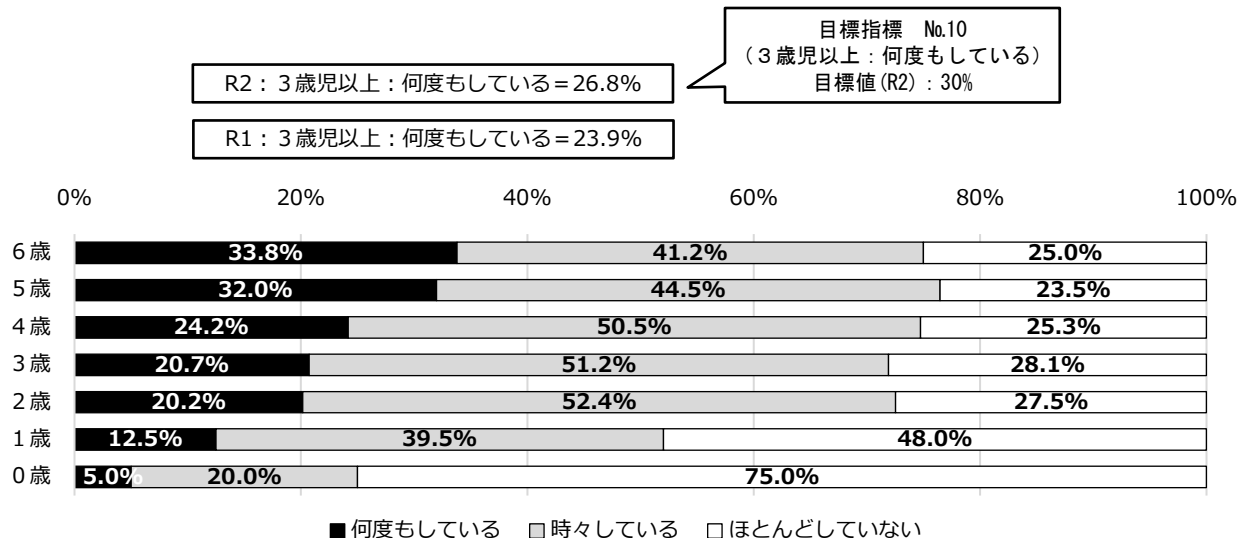
種別	ルルブル		学ぶ土台づくり	
	教員・保育士	保護者	教員・保育士	保護者
実践（意識）している	57.1%	23.8%	55.8%	14.4%
知らないが その内容は実践（意識）している	15.2%	42.8%	18.3%	49.3%
実践（意識）している割合	72.3%	66.6%	74.1%	63.7%
知っているが 実践（意識）していない	24.0%	23.4%	20.2%	11.0%
知らないし 実践（意識）していない	3.6%	10.0%	5.7%	25.3%

3 お子さんの体験活動について

3-1-1 お子さんは自然体験活動（水遊び、虫捕り、キャンプ、ハイキングなど）をどの位していますか。



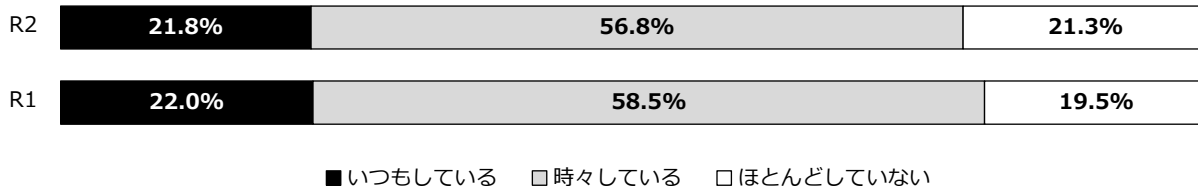
(年齢別内訳)



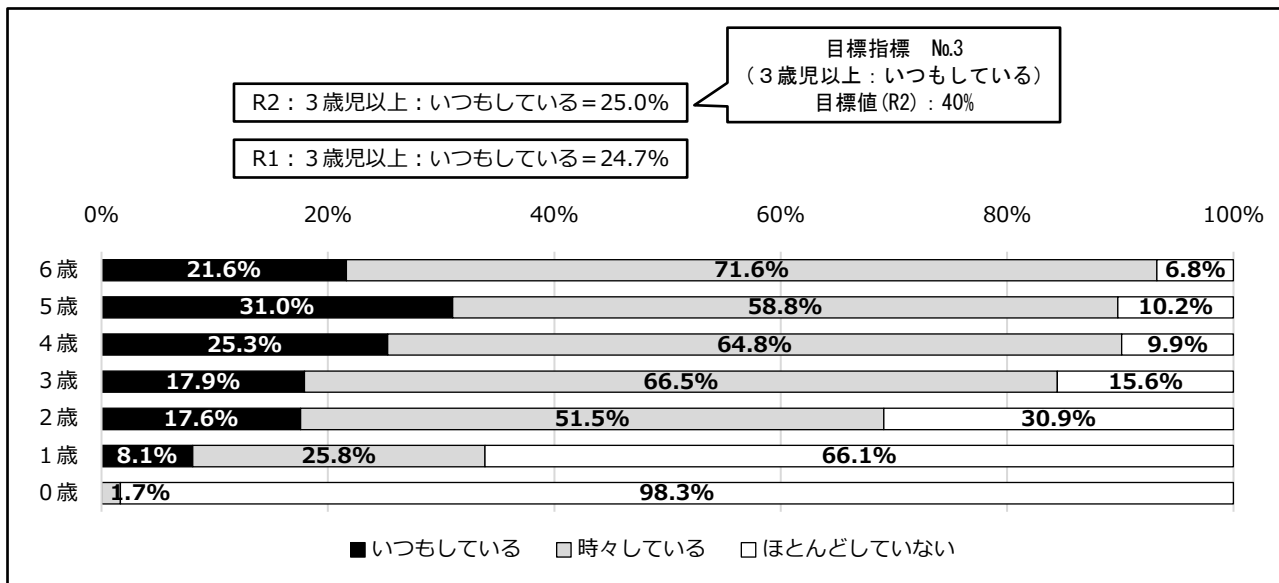
【概要・考察等】

- 自然体験活動を「何度もしている」と回答した割合は、昨年度より2.9ポイント増加した。
- 年齢別では、3歳児以上が自然体験活動を「何度もしている」と回答した割合は、昨年度より2.9ポイント増加した。
- 年齢が上がるごとに、自然体験活動をする頻度が高くなる傾向が見られることから、成長とともに、多様な活動ができるようになるためだと考えられる。

3-1-2 お子さんは家事・手伝い（食事の配膳・片付けや掃除，洗濯物をたたむなど）をどの位していますか。



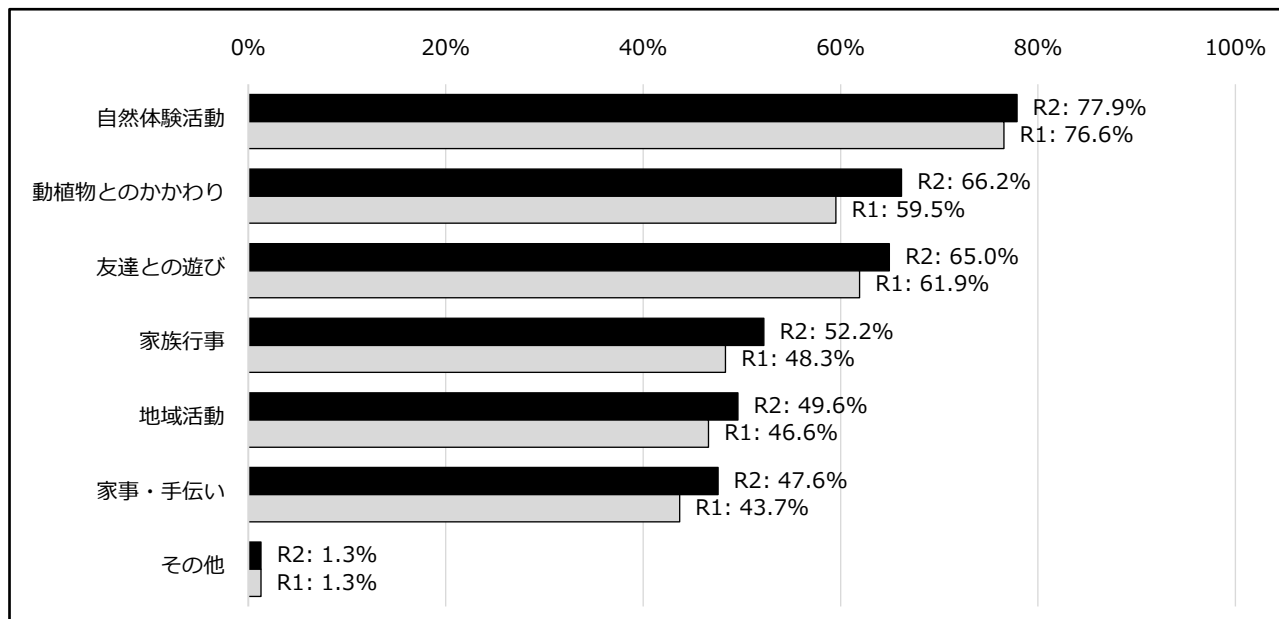
(年齢別内訳)



【概要・考察等】

- 家事・手伝いを「いつもしている」と回答した割合は，昨年度より0.2ポイント減少した。
- 年齢別では，3歳児以上が家事・手伝いを「いつもしている」「時々している」と回答した割合は，各年齢で80%以上であるため，子供が家族の一員としての存在であることを再認識し，家庭での役割を果たす経験をしていることがうかがえる。

3-2-1 家庭や地域でお子さんに体験させたい活動をお答えください。（該当するもの3つ選択）



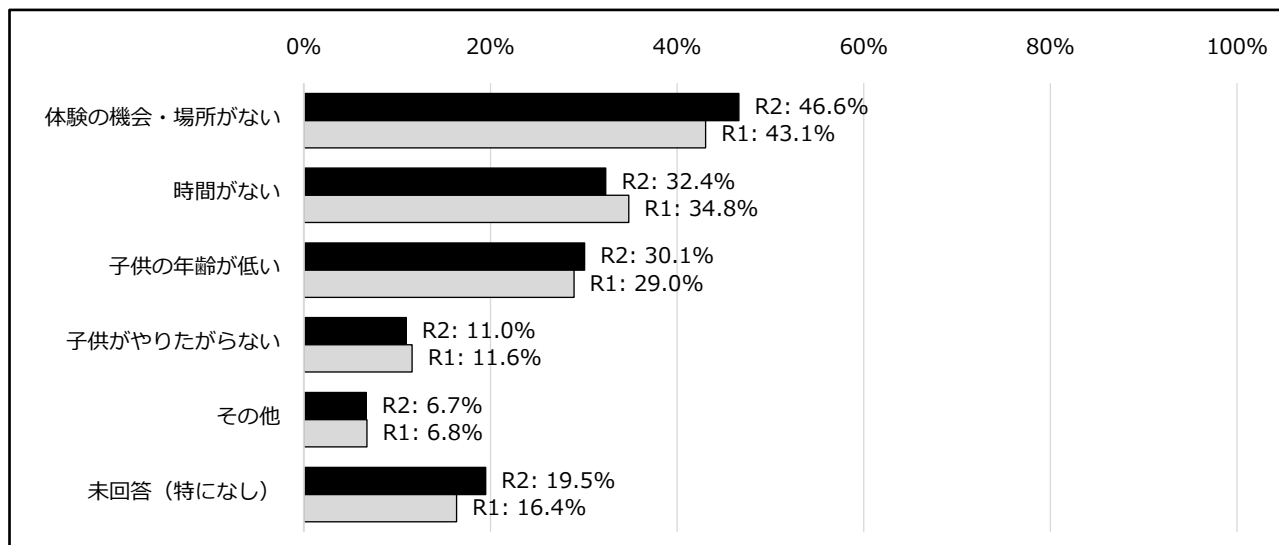
【その他の主な内容】

芸術、スポーツ、異文化交流、本人がやりたいと思ったこと

【概要・考察等】

- 「自然体験活動」「動植物とのかかわり」「友達との遊び」と回答した割合が高かった。
- 全ての体験活動の数値が増加したことから、子供に多様な体験活動をさせたいという保護者の意識がうかがえる。
- 保護者のニーズに応じた体験活動についてのメニューを検討し、情報提供の工夫を図っていく必要がある。

3-2-2 「3-2-1」の「お子さんに体験させたい活動」について、お子さんに体験させることが難しいと感じることがありましたら、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】

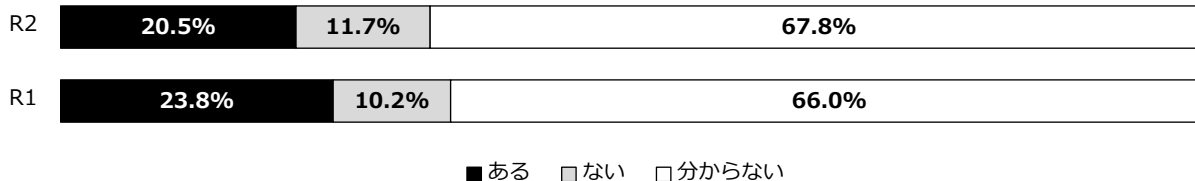
- 新型コロナウイルス感染症拡大が不安なため
- 下の子が小さいため
- 保護者自身に体験活動の経験がないため
- 仕事等で保護者に余力がないため
- 情報収集の仕方が分からないため

【概要・考察等】

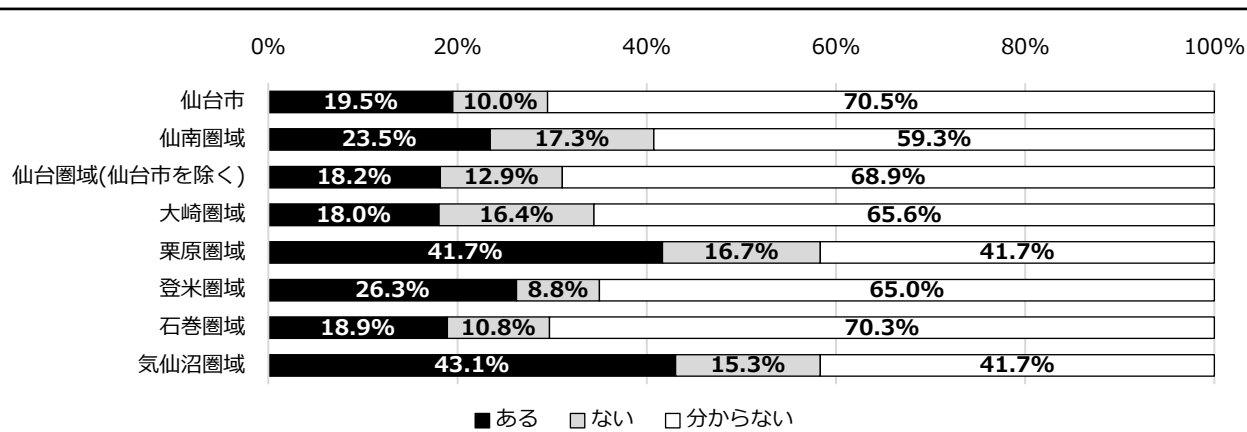
- 「体験の機会・場所がない」を理由として回答した割合が最も高く、昨年度より3.5ポイント増加した。体験の機会・場所の提供や情報提供の方法についても更に検討する必要がある。
- 今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためイベントが中止となったことや、感染防止のために体験できなかったことなども理由の一つとして挙げられている。
- 「時間がない」と回答した割合は、昨年度より2.4ポイント減少した。

3-3 あなたがお住まいの地域では、自然体験活動などについて参加できるイベントや催しなどがありますか。

目標指標 No.11
目標値(R2) : 35%



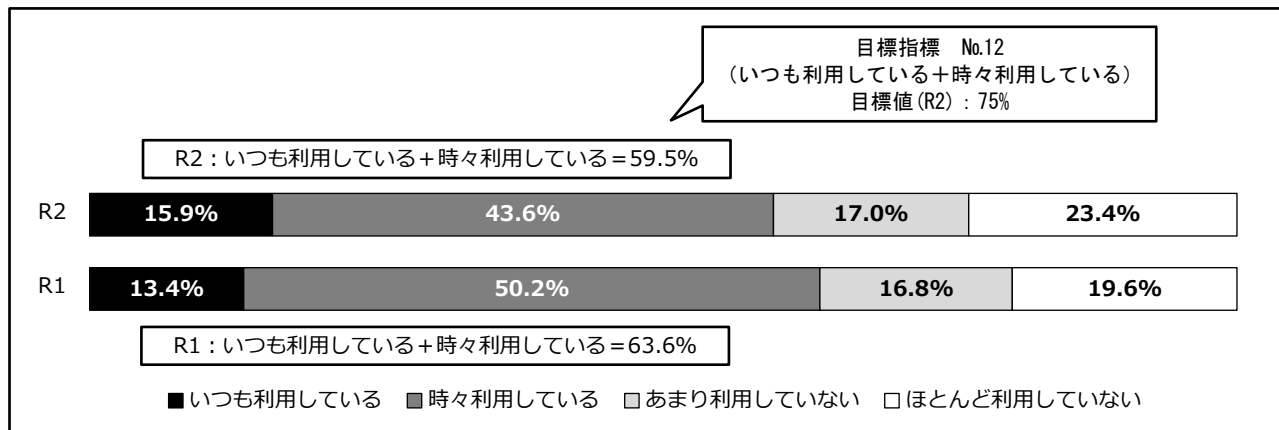
(圏域別内訳)



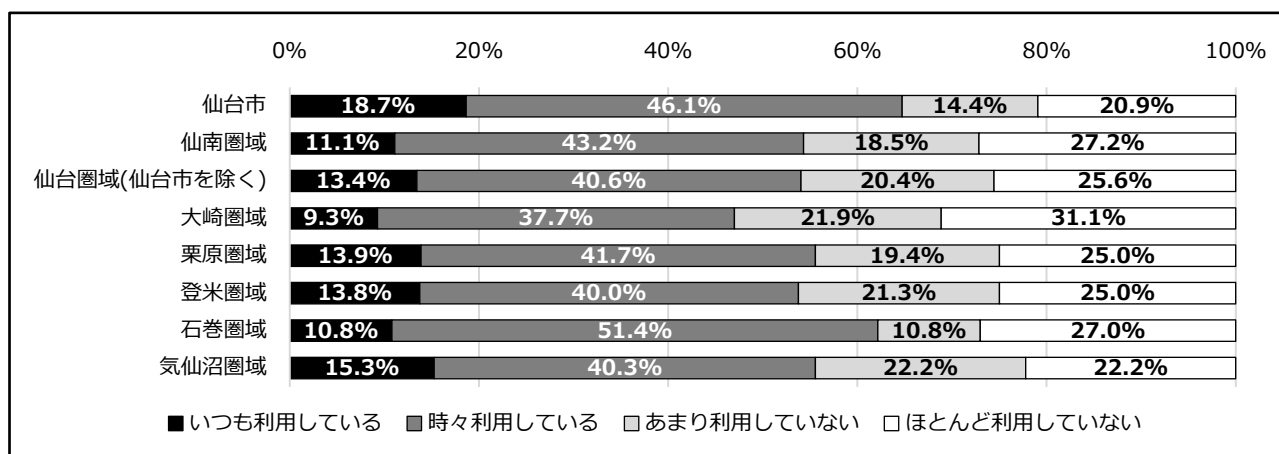
【概要・考察等】

- 居住する地域において、参加できるイベントや催しが「ある」と回答した割合は、昨年度より3.3ポイント減少した。
- 圏域別では、自然の家などの施設がある栗原圏域・気仙沼圏域などで「ある」と回答した割合が高い傾向が見られる。
- 県内全域で「分からない」と回答した割合が高かったことから、具体的なイベントや催しの周知方法に工夫が必要である。

3-4 遊び場として、公園や公民館、児童館などのコミュニティ施設を利用していますか。



(圏域別内訳)

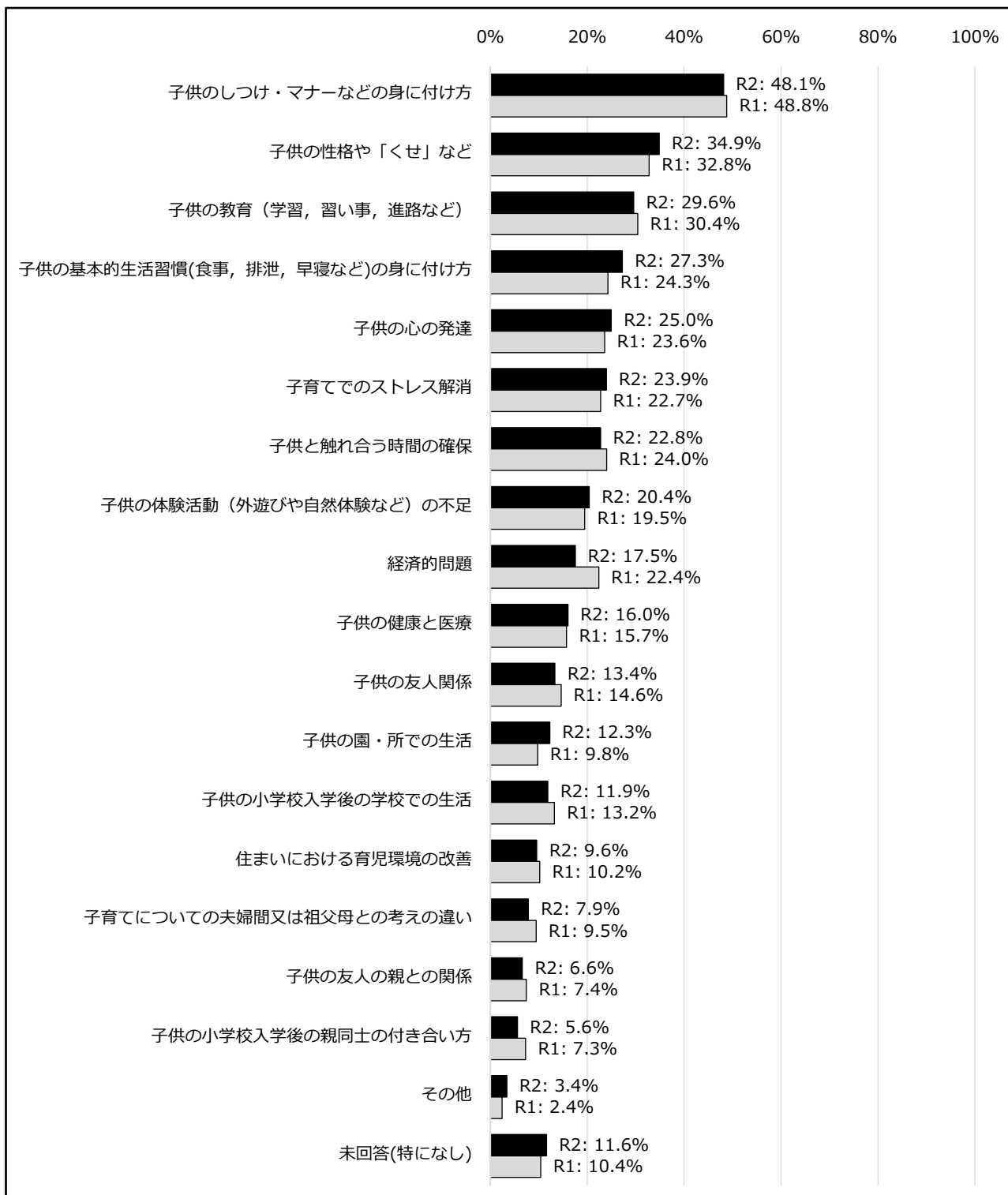


【概要・考察等】

- 遊び場としてコミュニティ施設を「いつも利用している」「時々利用している」と回答した割合は、昨年度より4.1ポイント減少した。
- 圏域別では、仙台市・石巻圏域で「いつも利用している」「時々利用している」と回答した割合が高かった。
- 引き続き遊び場に関する情報提供の方法について工夫していく必要がある。

4 幼児教育の環境について

4-1 子育てで悩んでいることがありましたら、その内容をお答えください。(該当するもの全て選択)



【その他の主な内容】

子供の遊び場の減少, 父親・母親の子育てへのかかわり方, 新型コロナウイルス感染症拡大の影響

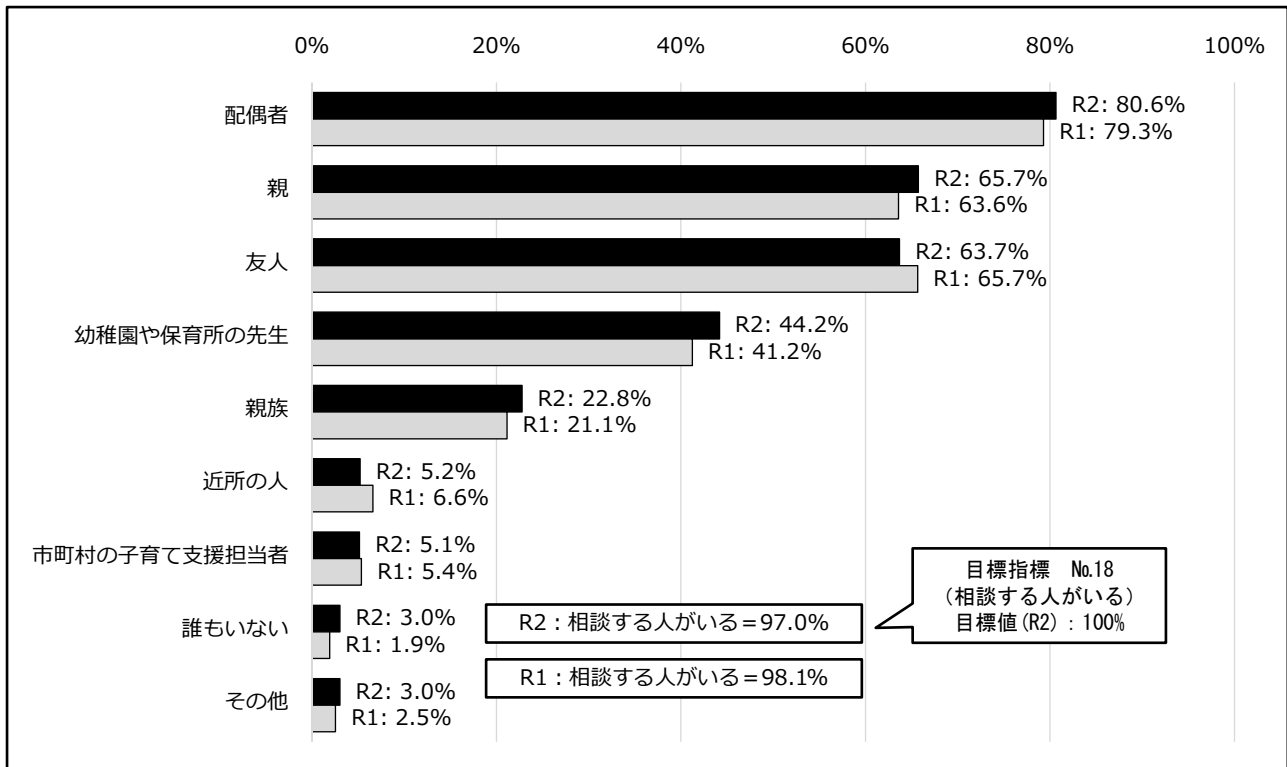
(今年度の年齢別上位項目)

順位 \ 年齢	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳
1 位	触れ合う時間	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー	しつけ・マナー
2 位	健康・医療	基本的な生活習慣	基本的な生活習慣	基本的な生活習慣	性格・くせ	性格・くせ	教育
3 位	基本的な生活習慣	触れ合う時間	性格・くせ	性格・くせ	教育	教育	性格・くせ
4 位	しつけ・マナー 経済的問題	ストレス解消	触れ合う時間	教育	心の発達	心の発達	心の発達
5 位		経済的問題	ストレス解消	心の発達	ストレス解消	小学校生活 ストレス解消	体験活動不足 小学校生活

【概要・考察等】

- 昨年度と同様、『子供のしつけ・マナーなどの身に付け方』『子供の性格や「くせ」など』と回答した割合が高かった。
- 年齢が上がるにつれて、「子供と触れ合う時間の確保」「子供の基本的な生活習慣（食事，排泄，早寝など）の身に付け方」と回答する割合が低く、「子供の教育（学習，習い事，進路など）」と回答する割合が高い傾向が見られる。

4-2 子育ての悩みについて誰に相談していますか。(該当するもの全て選択)



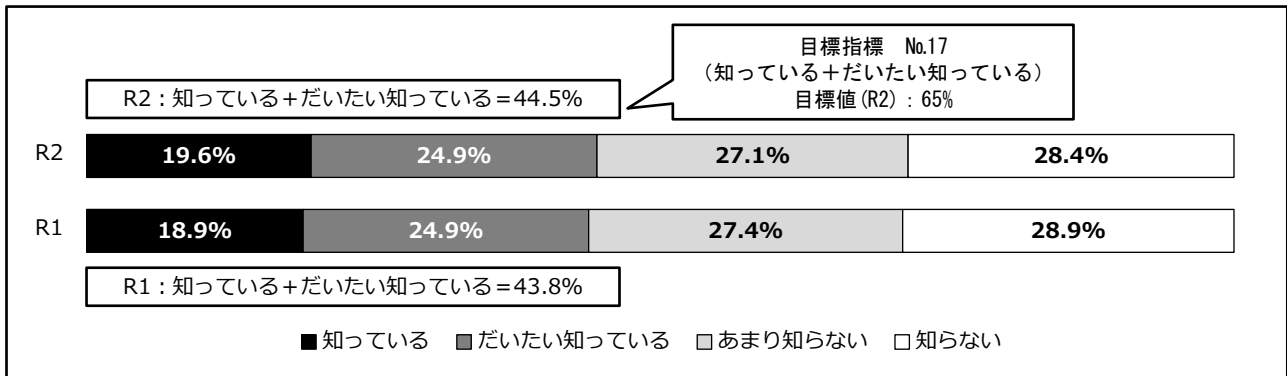
【その他の主な内容】

職場の人, SNS上の知人, 医療関係者, 習い事教室の先生

【概要・考察等】

- 子育ての悩みについて相談する人がいると回答した割合は、昨年度より1.1ポイント減少した。
- 「誰もいない」と回答した割合は、3.0%であり、全2,314件の回答数のうち70件の保護者が相談する人が「誰もいない」という結果だった。
- 子育ての孤立化は、児童虐待などに発展する事案があることから、引き続き子育ての悩みを相談できる環境づくりを推進していく必要がある。

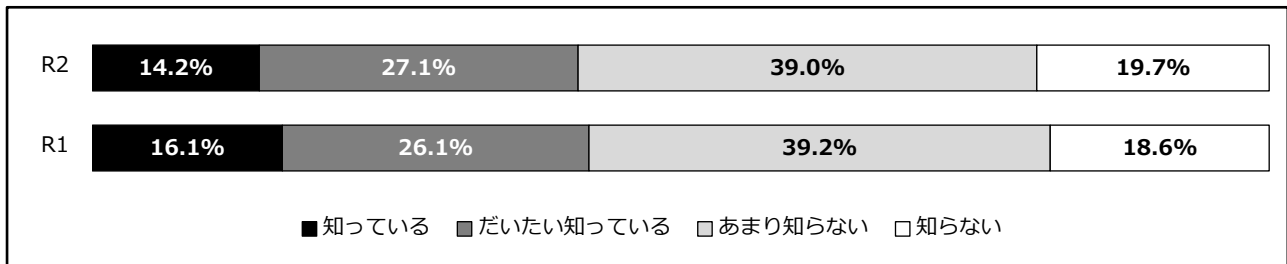
4-3 お子さんの行動（落ち着きがない、パニックを起こしやすいなど）が気になるときの相談先を知っていますか。



【概要・考察等】

- 子供の行動が気になるときにどこに相談すればよいか「知っている」「だいたい知っている」と回答した割合は、昨年度より0.7ポイント増加した。
- 「知っている」「だいたい知っている」と回答した割合が、50%以下であるため、引き続き相談できる窓口などの情報をどのように提供していくのか検討する必要がある。

4-4 発達障害（ADHD、LD、自閉症など）の特性や発達障害がある方への接し方などについて知っていますか。



【概要・考察等】

- 発達障害の特性や発達障害がある方への接し方などを「知っている」「だいたい知っている」と回答した割合は、昨年度より0.9ポイント減少した。
- 発達障害の特性や発達障害がある方への接し方を知ることにより、発達障害への適切な理解につながるため、引き続き発達障害に関する情報や学ぶ機会を提供する必要がある。